

しまなみ海道3日間の旅

車椅子とハンドサイクルで！ 第二弾

今回は、第二弾として、VMネット8号で掲載しました、登録ワーカーの松岡伸仁さん（脊髄損傷）が車椅子に装着するタイプのハンドサイクルを利用し、単独で「しまなみ海道」を走破された旅行日記の詳しい内容をご紹介します。前回の機関誌を片手にお読み頂ければ幸いです。

1日目（6月8日 尾道駅前～瀬戸田港）

深夜12時過ぎ、車で自宅を出発し、4時間半位で広島に到着。まだ、辺りは暗い状況で小雨が降っていましたが、1ヵ月程前の下見の後に、一番きつい所が因島を結ぶ橋（因島大橋）に上る勾配だと調べて分かったので、ハンドサイクルの弱点である上りが出来るか試すために車で向かいました。ハンドサイクルで上れることを確認し、出発地点の尾道に戻る頃には、小雨も止み、「しまなみ海道」を渡るには絶好の天候になりました。

尾道駅前にある「尾道駅前港湾駐車場」に車を駐車し港に向かいました。そこは身体障害者用の駐車場があり、障害者割引で半額になりました。初日で不安でしたが、駐車場の管理をしているおばさんに車椅子で渡ることを話すと色々な情報提供を頂きました。とても親切な方で、嬉しかったです。

いよいよ渡航です。10分くらいの短い航路ですが、午前7時に尾道駅前～向島（富浜）に出航。（身障者は半額の50円。）向島への橋を渡る3日間、小さな港では塩の満ち干きの関係で勾配がきつくなったり、段差があるなど、一人で船に乗るには難しかったのですが、それぞれ小さな港を管理する人がみえたので、その方や船長さんをお願いして、介助をして頂きました。

向島に到着後、早々、町中で迷ってしまいました。しかし、「おはよう」「暑かろう（方言）」「頑張ってるね」とたくさん声を掛けて頂き嬉しかったです。

早朝にハンドサイクルを試した坂、因島大橋に着きました。試した時は、入口付近の10メートル位までしか行かなかったのですが、実際走ってみると坂がきつく、日の照りも強く暑いので体に応えました。しかし、橋に上る辛いなか、海の景色が癒してくれました。その他の橋を渡る時は、海風もなく、橋を渡っている間は勾配もほとんどなく、優雅に海を景色を見ながら渡ることができました。

因島では、まず初めに道沿いにある「モアイ像」が挨拶してくれました。その後、サイクリングに来ていた子供連れの家族と挨拶をし、コンビニでは一人旅をしている関西の学生さんと色々会話をしました。

この島では、人との触れ合いを感じつつ、次の島では、学生さんに教えて頂いた美味しいジェラートを食べるという目標が出来ました。



因島大橋

船の後ろのデッキに乗せて頂き尾道に帰りました。海上が陸と違い涼しく、気持ち良かったです。乗降に苦労しましたが、快く介助して頂いた御礼と明日の介助をお願いしその場を離れました。

ホテルは朝、駐車をした場所から5分位の尾道国際ホテルに予約をしました。ハンディーキャップルームに宿泊しましたが、不便を感じる箇所は多々ありました。しかし、ハンディーキャップルームがあるだけでも感謝しました。日焼け、睡眠不足、体力消耗で辛い状態でしたが、ノートパソコンを持って行ったので、ネットや本で明日の予定を確認して早々に床に就きました。



向島行渡船のりば

生口橋は、因島大橋に比べ、高さはそれ程なく、勾配の傾斜も少し穏やかでした。しかし、だんだんと暑さが増し、肌もジリジリと痛く感じました。サイクリングロード沿いには自動販売機が多くあり、喉が渇く前に小まめに水分補給（4～5リットル/1日）をしました。もちろん因島で知り合った学生さんのおすすめジェラートを食べ、暑かったので体を冷やしました。

そして、初日の予定終着地点瀬戸田港に着きました。入口が工事中であったため、そこに居合わせた人達をお願いをし、乗り口まで介助して頂きました。



瀬戸田港